

令和2年度における太田川再生方針に基づく 取組の成果及び今後の方針について

資料8



中国新聞社提供

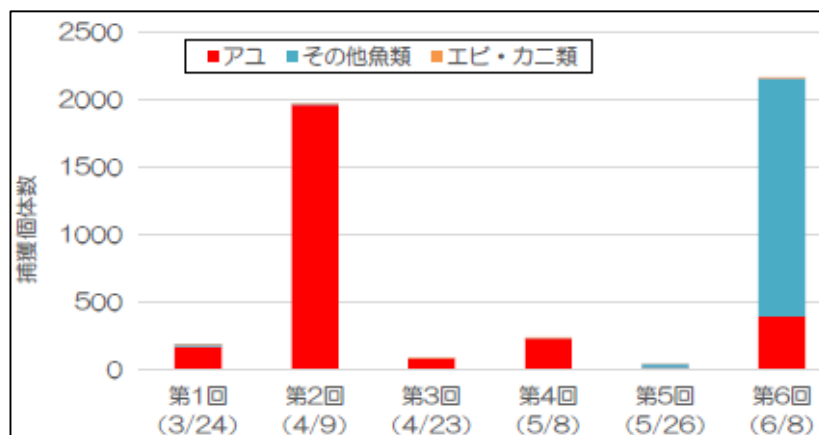
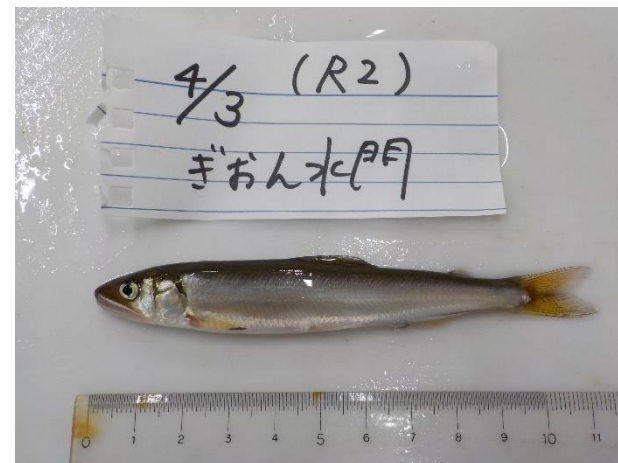
2020年(令和2年)12月13日(日) 中国新聞 日刊で紹介されました。



- ・写真は、令和2年11月上旬 太田川下流域の口田南周辺の産卵場(ヤナギの瀬)の様子
- ・太田川漁協の山中代表理事組合長のコメントとともに、漁協の産卵場造成の取組が紹介

令和2年度の天然アユの遡上状況について(4月)

広島市水産課、太田川漁協で、投網による遡上アユの捕獲調査(4月2日、3日)



国土交通省中国地方整備局HPより抜粋

- ・今年度、3月にアユの遡上を確認している。
(広島市水産課も3月中旬に支流でアユの遡上を確認している。)

令和2年度の天然アユ遡上数推定調査について(5月末)

平成30年度第2回太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会

太田川再生方針に基づく、アユを増やす取組の目標数を検討し、
太田川漁協管轄内の**天然アユの遡上目標数を、91万尾と設定**

調査で目標数の達成状況を確認し、今後の取組を検討するため
令和2年度の天然アユの遡上数を推定

なお、令和2年度の調査では、太田川本川のみを対象とした
ため、目標値から支流(※根の谷川及び三篠川の一部)の
目標値を除き、検証を行った。

$$91\text{万尾} - 20\text{万尾}(\text{※}) = \boxed{71\text{万尾}}$$



潜水目視調査



天然率算出(上 天然アユ、下 人工アユ)

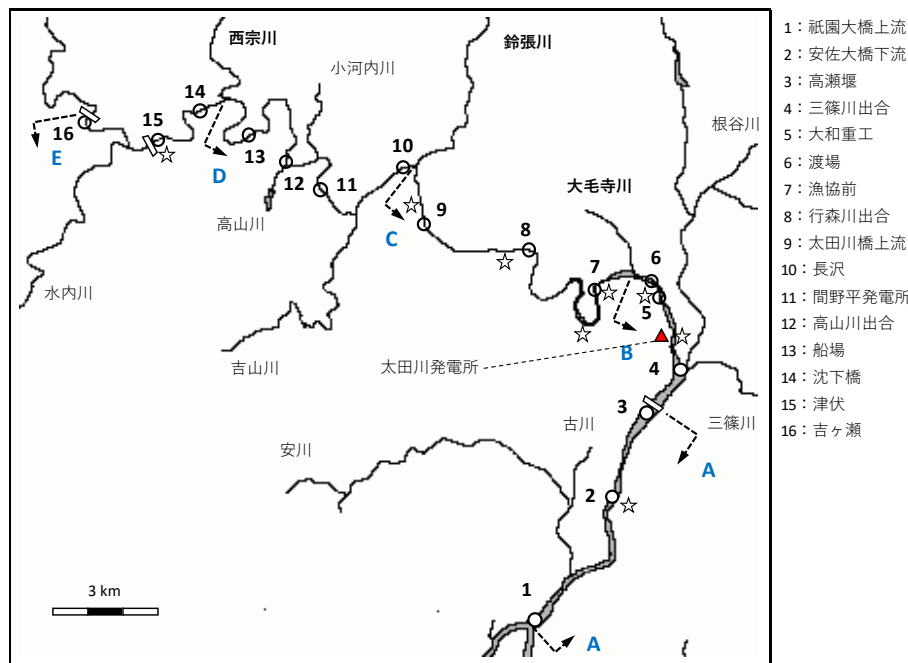


1区間でコロガシ釣りで採捕したアユ



由来判別風景(採捕当日実施)

① 5区間の水面面積と平均密度（瀬・淵）から生息数を推定



潜水目視観察による、推定生息数は瀬・淵を合わせ、**約69万尾**

※天然・人工をあわせた尾数

透視度に±20%の幅を持たせた発見率を用いた

推定生息数は、**約69万尾**(幅: 約62万尾~87万尾)

②由来判別結果について

採捕した全133尾中、天然アユが128尾、人工アユが5尾
→ 結果、天然率は96.2%



③ ①・②より算出される天然アユの推定遡上数

天然アユの推定生息数は、約66万尾(幅:約60万尾~84万尾)

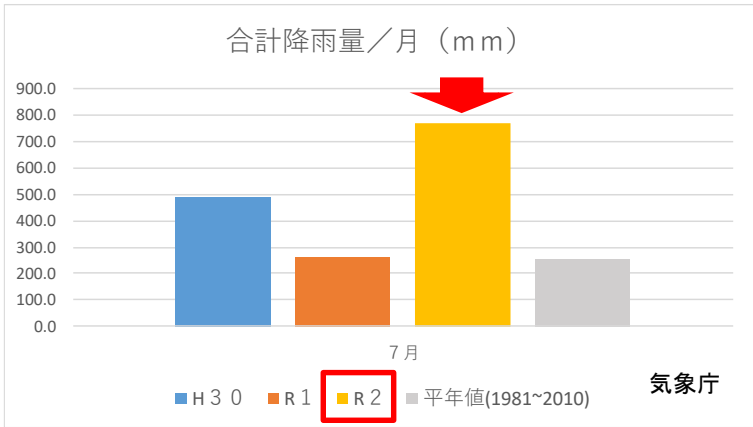


令和2年度は、概ね目標値を達成する遡上量であった

・太田川上流域や支流まで、多くのアユが遡上し、定着した。

令和2年度の天然アユの生息状況についての推定（7月）

7月の降雨量は、計700mm以上と豊水であった。



【太田川本川】

出水によって、**太田川本川**に定着していたアユの多くは、**下流域まで降下した。**



太田川本川では、釣りができない状況が続き、漁獲量が少なく、**アユの多くが河川に残った。**

【太田川上流域・支流】

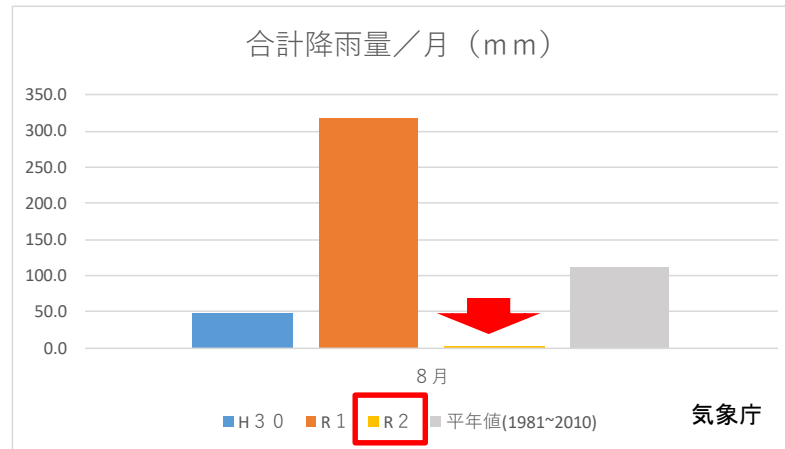
出水の影響が比較的緩やかなため、**上流域や支流**に定着していた**アユの多くは留まった。**



例年と違い、シーズンを通して、**上流域や支流**において、**釣果が好調であった。**
(太田川漁協聞き取り)

令和2年度の天然アユの生息状況についての推定（8月）

8月の降雨量は、計10mm以下と渇水状態であった。



7月に下流域まで降下したアユの多くは、再遡上し、高瀬堰上流の三川合流域（八丈）周辺に定着した。

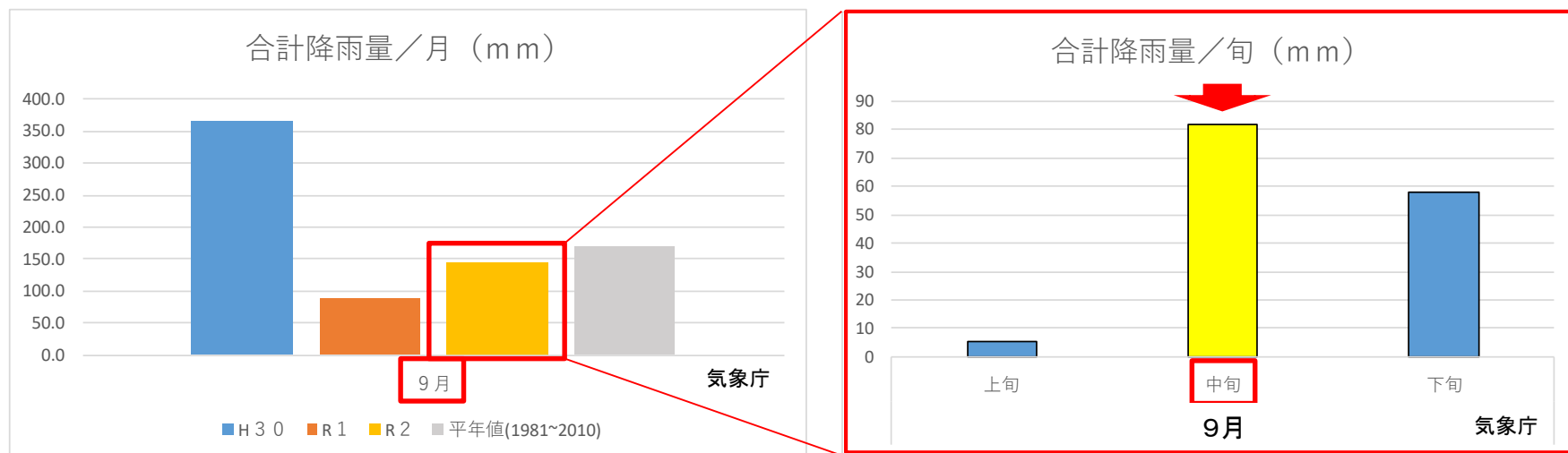
8月下旬以降は、上流域や支流に定着していたアユは、産卵期に向けて降下が始まるが、渇水状態であったことから、高瀬堰上流で留まり、八丈周辺に更に多くのアユが集まった。



8月以降シーズンを通して、**八丈周辺では釣果が好調**であり、**八丈周辺より上流域では、釣果がやや不調**であった。（太田川漁協聞き取り）

令和2年度の天然アユの生息状況についての推定（9月）

9月は、中旬に計80mm以上のまとまった雨量があった。



太田川下流域へのアユの降下が促進された。

令和2年度の天然アユの産卵状況についての推定（10月）

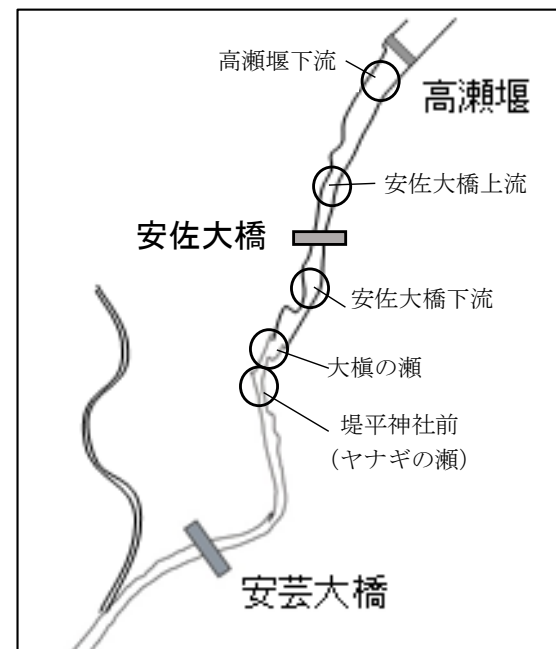
10月13日（水温19.5℃）大槇の瀬において、少量の産着卵・親魚約1,000尾を確認



10月20日（水温17.5℃）調査者：広島市・太田川漁協
高瀬堰直下～堤平神社前にかけて、産卵場調査を実施

【調査項目】

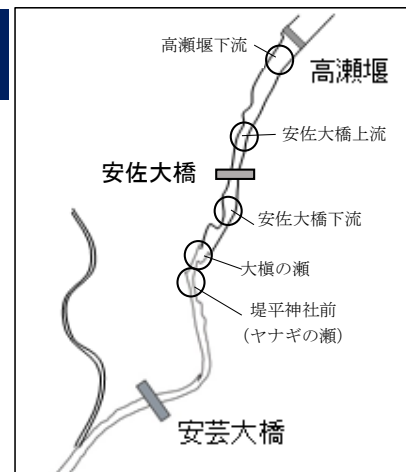
- ・ 瀬でのアユの産卵状況（産卵場へのダメージを最大限考慮）
- ・ 親魚アユの生息数
- ・ 瀬の状態（河床高度（シノの貫入度）、床石の粒径等）



令和2年度の天然アユの産卵状況についての推定(10月)

大槇の瀬から堤平神社前(ヤナギの瀬)

- **推定親魚数** : **約31万尾** (約2.3ha)
 - **推定産着卵数** : **約2,100万粒** (約0.3ha)
- (広範囲で大規模産卵が行われた。)



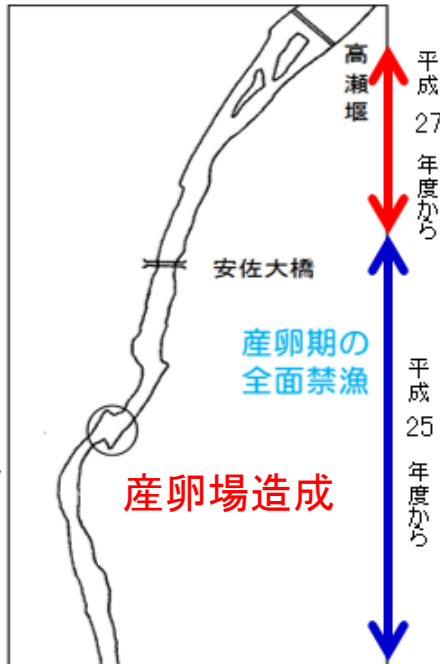
中国新聞社提供

令和2年度の天然アユの産卵状況について(10月)

太田川漁協の産卵場造成、堰下流の禁漁区設定に一定の効果が見られた



中国新聞社提供



	平成25～26年度	平成27年度～（区間拡大）
禁漁期間	10月1日～11月15日	10月1日～11月15日
禁漁区間	祇園新橋の下流220m ～安佐大橋上流側	祇園新橋の下流220m ～高瀬堰下流30m

高瀬堰上流の八丈では、シーズンを通して釣果が良かった。(太田川漁協聞き取り)



下流域のみではなく、堰上流にもある程度の産卵場が形成されたことが示唆された。

太田川漁協組合員、行政、市民の方々による産卵場造成の様子



中国新聞社提供

まとめ・今後の方針について

- 平成25年に太田川再生方針を策定し、様々な取組を行ってきた結果、アユについては、資源量が増加・回復傾向にあり、シジミについては、有効な手法を現在検討中である。



- 令和2年度、アユについては、天然アユ遡上数推定調査（以下「推定調査」）の結果、太田川漁協管轄の太田川本川の目標数**71万尾**を概ね達成した。
- 令和3年度、支流を含めた推定調査を実施し、目標数**91万尾**に対する達成状況を確認する。



- 令和3年度以降も、太田川再生方針に基づく様々な取組を継続して行い、推定調査結果を積み重ねた上で、適正収容量を全て天然アユの遡上でまかなうと仮定し設定した、目標値**242万尾**の達成を目指す。
(平成30年度 第2回太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会で設定)
- アユの産卵場造成、天然アユを市民が食べられる場を増やす等のイベントを活用して、「みんなで太田川を再生させる」という機運を作り出すことも重要である。(市民参画)**